

手柄山温室植物園だより

シリーズ：姫路市に見られる身近な植物

28. コオニタビラコ（キク科ヤブタビラコ属）

Lapsana apogonoides Maxim.

2015年3月

田んぼや畦畔などの湿ったところを好む越年草です。根出葉はロゼット状に広がり、長さ4~10cmで羽状に裂け、頂羽片は大きく丸みを帯びます。花茎は複数出て、高さ10~20cmで少数の葉が付きまゝす。3~5月にまばらに数個の頭花を散房状につけます。黄色の頭花は小さく径5~6.2mmで6~9個の舌状花があります。そう果は淡黄褐色で長さ3~4.5mm、先に1mm程度の鉤が通常2個つきます。分布は本州、四国、九州、朝鮮、中国（中部）で、姫路市においても田んぼなどによく見られます。春の七草のひとつ「ホトケノザ」の名で知られた植物で、タビラコの別名があり、田平子（タビラコ）と書き、田んぼに張り付くように根出葉を広げる様子から名付けられたといわれています。早春の若い葉はやわらかくておいしいもので、さっと茹でておひたしやあえ物に適しています。類似種にヤブタビラコ（*Lapsana humilis* (Thunb.) Makino）があります。本種は舌状花の数がコオニタビラコより多く18~20個、また、そう果は赤褐色で長さ2~2.8mm、先に鉤がないところが異なります。ヤブタビラコは全体に軟毛があります。



コオニタビラコ



ヤブタビラコ